

Media Information

2021年12月12日

FRJ 2021 ラウンド5 レース12 レースレポート

- ・ 2番手から好スタートでホールショットを奪取した小川颯太選手がFRJ初優勝！
- ・ 古谷悠河選手は2021シリーズチャンピオンを決める

Formula Regional Japanese Championship (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2021のラウンド5 レース12の決勝が12月12日(日)に鈴鹿サーキットで行われ、3号車の小川颯太選手(SUTEKINA Racing)が初優勝を飾りました。また、5位に入った28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)は最終戦のレース13を待たずしてシリーズチャンピオンを決めました。



前日と同様にドライコンディションとなった鈴鹿サーキット。今週末の1レース目は12周で争われました。スタートでは、2番グリッドから小川選手が好ダッシュを決め、トップで1コーナーを通過。4番手スタートの9号車、高橋知己選手(アネスト岩田Dome F111/3)は2番手に浮上。ポールポジションの45号車、大草りき選手(PONOS Racing)は3番手に後退しました。また、このレースでチャンピオンが決まる可能性のある古谷選手もスタートで出遅れてしまい、5番手でレースを進めることに。

大草選手は2周目に高橋選手を抜いて2番手に上がるとトップの攻略にかかりましたが、序盤からファステストラップを連発する勢いをみせた小川選手との差は、なかなか縮まりませんでした。

一方、マスタークラスでは4号車の今田信宏選手(JMS RACING with B-MAX)がスタートからクラストップを維持。6周目を終えた時点で、クラス2番手の7号車、畑享志選手(F111/3)に対し5.4秒のリードを築き、安定した走りを見せました。

レース後半の8周目に、マスタークラス4番手を走行していた30号車のDRAGON選手(B-MAX ENGINEERING FRJ)がS字コーナーを抜けたところでスピンを喫し、グラベルゾーンにストップ。マシンを安全に回収するためセーフティカーが導入されました。

これにより各車の差がリセットされ、ファイナルラップに入るところでレースが再開されると、2番手の大草選手が一気にスパートをかけて小川選手に接近、日立Astemoシケインで並びかけますが、減速しきれずコースオフ。結局イエロー後の順位変動はなく、小川選手がトップでチェッカーを受け、FRJ初優勝を果たしました。

2位には大草選手、3位には高橋選手が続きました。古谷選手は5位入賞を果たし、最終レースを待たずに2021年のFRJシリーズチャンピオンに輝きました。

マスタークラスでは、終始トップを守り続けた今田選手が今季クラス3勝目を記録。2位に畑選手、3位に96号車のTAKUMI選手(B-MAX ENGINEERING FRJ)が入りました。

同クラスのランキング首位で、このレースを迎えた39号車の田中優暉選手(ASCLAYindサクセスES)はクラス3番手を走行していましたが、ファイナルラップのNISSINブレーキヘアピンでスピンを喫してクラス5番手に後退。これにより、畑選手が178ポイントでマスタークラスのランキングトップに浮上しました。

■ レース12 優勝 小川颯太選手コメント

「スタートしか前に出るチャンスがないと思っていたので、緊張というか不安はありました。トップに立ててからは、このまま逃げ切ろうと気持ちを切り替えてレースができましたが、セーフティカー明けのラスト1周では、守りに入ってしまった部分がありました。気持ちで負けていて、全力で攻めることができなかつたことが悔しいです。でも、初優勝というのは嬉しいです。応援してくれた皆さんやチームに、やっと恩返しすることができました。そこはひと安心しています。2レース目は3番手からのスタートですが、1レース目より攻めの走りができるように頑張りたいです」

■ レース12 マスタークラス優勝 今田信宏選手コメント

「スタートから良い感じでいけたので、そのペースを維持して走り切ろうと考えながらレースを進めました。セーフティカー導入中はどうしてもタイヤが冷えてしまうので、再スタートの時にスピンだけはしないように、後ろとの距離を見ながら走りました。これでトップとのポイント差が縮まりましたし、このままいけば逆転チャンピオンの可能性も出てきましたが、それに浮かれてミスをしたくないように、次のレースもきっちりと走りたいと思います」

■ FRJ2021 シリーズチャンピオン 古谷悠河選手コメント

「今シーズンはタイトルを獲ることを一番の目標にして頑張ってきたので、それが達成できたことは良かったです。ただ、レース12はスタートで遅れてしまい、その後のペースもなかなか上がらずに苦しい展開となりました。チャンピオン獲得は嬉しく思いますが、次のレース13で、最後は勝って終わりたいと思っています」

「FRJに参戦してたくさんの経験をさせてもらいました。特にクルマのセッティングというのは走り出したら変えられないので、そこから自分がドライビングでどれだけ対応できるかというのが大事だと思います。そこをFRJでシーズンを通してたくさん学べたと思いますし、ここで留まることなく、さらに高みを目指して頑張りたいと思います」

以上